

家庭教育に関する調査結果と今後の取組みの概要

目的

- ・本県における家庭教育の実態把握
- ・家庭での親の関わり方の状況が子どもにどう影響するか分析
- ・課題に対する必要な取組みの検討

調査内容

- (1) 属性、家族について：3問
- (2) 親の関わりについて：18問
- (3) 子どもが望む親の行動について：1問
- (4) 子どもの自己意識について：19問

令和3年9月実施

調査対象
小学5年生：1,144人
中学2年生：1,608人

※調査項目の「家の大人」をここでは「親」と表記している

調査結果

丸数字は調査項目番号

子どもが感じる親の関わり

- 9割以上が「話す、話を聞いてくれる」と感じている
親とよく話す・ときどき話す(小 97% 中 94%)…④
親は日ごろ、話をよく聞いてくれる・どちらかといえば聞いてくれる(小 96% 中 95%)…⑥
- 約9割が「自分の気持ちを理解し、尊重してくれている」と感じている
親は自分の気持ちを分かってくれている・どちらかといえば分かってくれていると思う(小 93% 中 87%)…⑦
親は自分の考えを大切にしてくれている・どちらかといえば大切にしてくれていると思う(小 95% 中 93%)…⑧
- 約9割が「ほめられる」と感じている
家でよくほめられる・ときどきほめられる(小 90% 中 85%)…⑨

○9割以上が「好きなことや得意なことがある」と思っている
好きなことや得意なことがある 当てはまる・どちらかといえば当てはまる(小 97% 中 96%)…⑭

○9割以上が「友達と協力するのは楽しい」「人の役に立つ人間になりたい」と思っている
友達と協力するのは楽しい 当てはまる・どちらかといえば当てはまる(小 95% 中 94%)…⑰
人の役に立つ人間になりたいと思う 当てはまる・どちらかといえば当てはまる(小 96% 中 96%)…⑱

○9割以上が「親は自分をよく理解し、大事にしてくれている」と思っている
親は自分をよく理解し、大事にしてくれている 当てはまる・どちらかといえば当てはまる(小 95% 中 93%)…㉓

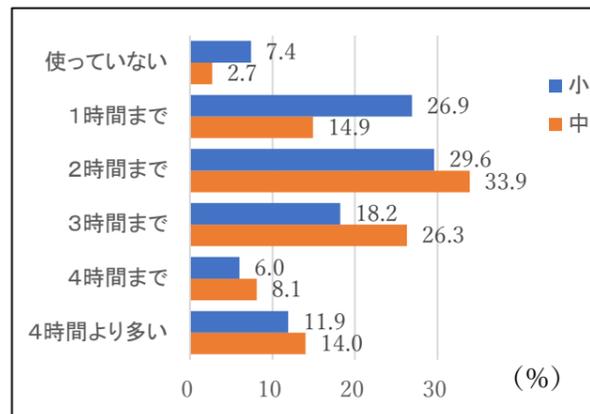
○約9割が「きまりやルールを守っている」と思っている
人が見ていなくてもきまりやルールを守っている 当てはまる・どちらかといえば当てはまる(小 88% 中 91%)…㉕

子どもの自己意識

インターネットの利用

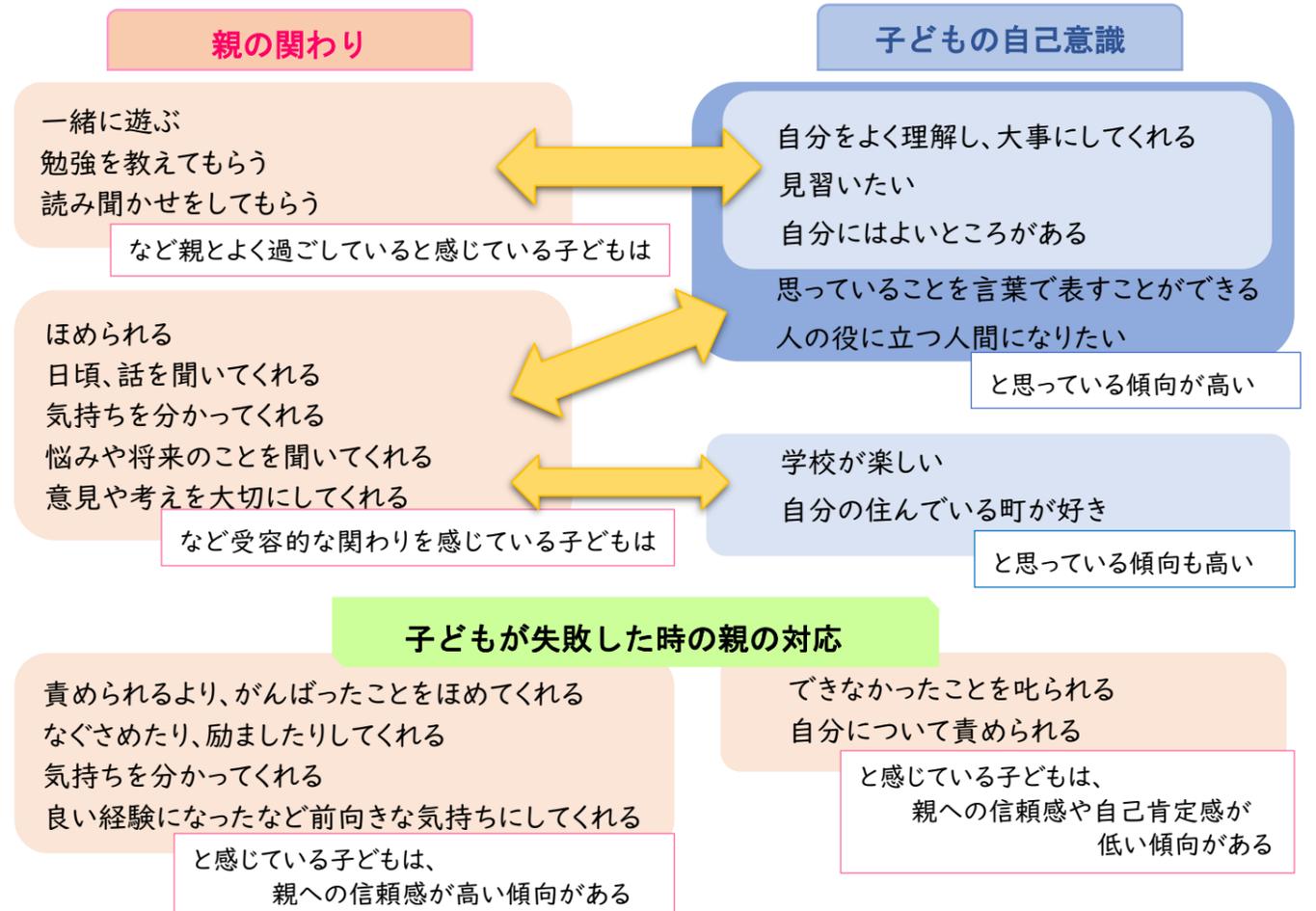
○約2割がインターネットの自己管理ができていない傾向が見られる
インターネット(SNS、ゲーム、動画など)を使って、やめたいときにやめることができない・どちらかといえばやめることができない(小 16% 中 19%)…⑳

○約4割の小学生、約5割の中学生がインターネットを2時間以上利用している
平日、家でインターネットを2時間以上使っている(小 36% 中 48%)…㉑



「平日、家でインターネットをどのくらい使っていますか」

「親の関わり」と「子どもの自己意識」の関係



今後の取組み

- 育みたい子どもの姿
- 自分も人も大切にする子
- 前向きにチャレンジする子
- 思いを表現する子

○親学びプログラム集の作成と活用

- ・子どもとの関わり方について、小中学生の保護者同士が話し合いながら学び合うためのプログラム集の作成(例:子どもが伸びるほめ方・叱り方、チャレンジ精神・レジリエンス(逆境に負けない力)・表現する力を育てる関わり方、ゲーム・スマホとのつきあい方等)
- ・県PTA連合会と連携し、プログラム集を活用した参加型学習会の実施

○企業と連携した研修会の開催

- ・企業を会場とし、家庭教育に関する研修会や親子活動などを実施

○家庭教育リーフレットの配付

- ・インターネット適正利用のための「お子様がインターネットを上手に利用するために知ってほしいこと」
- ・生活習慣づくりのための「子どもが輝くために大切にしたい5つのこと」
- ・いじめ未然防止のための「STOP!いじめ」

○PTA活動 地区別研修会の開催

- ・県PTA連合会と連携し、情報モラル、生活習慣、読書、自己肯定感、食育について保護者に啓発

○家庭教育支援テレビ番組「ぶらり子育てしゃべり隊プラス！」の放映

- ・ほめ方、叱り方、自己肯定感・チャレンジ精神の育て方、ゲーム・スマホとのつきあい方等、親の関わり方を啓発